授業の具体的展開例

Ｔ：となりの人、グループの人と交流をしてみましょう。それでは、チャレンジした人、みんなの方を向いて説明してください。
Ｃ：Ａの自動車は、４リットルで７２km走るから、７２÷４＝１８となり、Ｂの自動車は、５リットルで８０kmで走るから、８０÷５＝１６となる。つまりＡは１リットル当たり１８km走り、Ｂは１リットル当たり１６km走る。だからＡの方が１リットルあたり２km多く走ることになるから環境によい。
Ｔ：説明してくれた人は、何をそろえてくらべたのですか。
Ｃ：１リットル当たりで走るきょりです。
Ｔ：Ａの車は１リットルあたりどれだけ走るんですか？
Ｃ：１８kmです。
Ｔ：Ｂの車は１リットルあたりどれだけ走るんですか？
Ｃ：１６kmです。
Ｔ：これを見て気付くことがありますか。
Ｃ：Ａの方がいっぱい走る。
Ｔ：○○さんは何で比べたの？
Ｃ：１km当たりに使うガソリンの量です。
Ｔ：正確に言いましょう。
Ｃ：Ａ　0.056 リットル
　　Ｂ　0.063 リットル
Ｔ：○○さん、どっちが環境によいですか？
Ｃ：Ａの方が環境によいです。
Ｔ：１km走るのに使うガソリンが少ないＡの方が環境によいですね。
　　○○さん、すごい発想だったね。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の３時間目である。それまでの時間で自分の考えを図や言葉で表す学習をしてきたので、この時間でも、自分の考えを図・文・絵で表現することで児童が導いた式や答えが何を表しているかを明確にする力を付けさせる。

また、Ａ、Ｂどちらの自動車が１リットル当たりで走ることのできる距離が長いかを比べるには、ガソリン１リットル当たりで走ることができるきょりと１キロメートル当たりで使うガソリンの量で求める方法の２通りがある。ここでは、児童が自分の求めやすい方法で解決する力を付けさせる。そのために、まず、考えた方法に机間指導で丸をつけたり、「いい方法を見付けられたね。」と励ましたりして自信がもてるような評価をする。

一問一答式の簡単な発問には反応できるが、理由付けや説明を求められると発言する児童が限られる場合には、説明する力を育むためにＡ３の用紙を与えて、そこに自分の考えを書き、それを黒板に貼って発表させる方法を取り入れる。筋道を立てて発表することにより、説明する力を伸ばすことやみんなの前でも発表することへの抵抗感をなくすことができる。また、友だちの発表を聞くことにより、「そういう考えもあるんだな。」と問題解決の方法の幅を広げることもできる。

「活用」の力を育てる評価の視点

この単元では２つの量の割合で表される量について、その比べ方を学習する。異なった２つの量を比較する場合、大きさを単位量あたりの大きさにそろえ、比べるという考え方が求められる。

ここでは、「Aの自動車は、　4リットルのガソリンで７２km走ります。Bの自動車は、5リットルのガソリンで８０km 走ります。どちらの自動車が得ですか。」という問題なので

考え方①　７２÷４　８０÷５　と式を立てガソリン１リットルあたりで走れる道のりを求める方法と

考え方②　４÷７２　５÷８０　と式を立て１キロメートルあたりで使うガソリンの量で求める方法の２通りの考えがある。

「活用」の力を見取る具体的な基準としては、

(1)考え方①や②の方法に気付き、式だけでなく図や文で答えを説明することができる。
(2)考え方①や②の方法に気付き、式を立て答えを出すことができる。
(3)考え方①や②の方法に気付くことができない。

(2)の児童には、どんな図をかけばよいか前時までに学習したことを想起させたり、(3)の児童には、簡単な数に置き換えて考えさせる個別指導が必要である。さらに、振り返りをして今日学習して分かったことを自分なりに書き、授業で学習した大切なことを自分なりにまとめることが大切である。

このように筋道を立てて考えたり振り返って考えたりする場面を取り入れることにより、「活用」の力を育成したい。

教材・教具

HOME　本時の流れへ